

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

基本事務事業名] 電気事業
 評価年月日] 12. 11. 10
 主担当部課名] 電気課
 記入課名・課長名] 電気課 森 栄蔵

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策 : 計画的な県土利用と資源エネルギー対策の推進 (V-6)

施策 : エネルギー対策の推進 (2)

総合計画の目標項目 : 水力発電施設の発電能力、RDF発電施設の発電能力

波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策 : 大気環境の保全、県土の計画的な利用の促進、廃棄物の適正な管理

2 基本事務事業を巡る環境変化 (過去、現状、将来)

- ・本県の電力使用量は、毎年数%の伸びを示しており、今後とも電源開発を推進していく必要がある。
- ・電気事業は、石油代替エネルギー政策、CO₂の排出抑制政策等の環境保護を推進しながら、エネルギー確保のための事業を推進していく必要がある。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図 何をどういう状態にしたいのか)

- ・水力発電により、火力発電による石油の消費を抑制し、CO₂の排出を抑制するエネルギーの確保を図る。
- ・水力発電の開発を行うことにより、エネルギーのベストミックスの達成を図る。
- ・市町村で製造されるRDFの安定的な受け皿として、RDF発電所を建設し、資源循環型社会の構築を目指す。

3-(2) 成果指標名・成果指標式 総合計画の目標項目には＊を付す)

- ・供給電力量の満足度 $(1 - \text{発電支障電力量} / \text{発電可能電力量}) \times 100$

②変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明 指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

- ・クリーンエネルギーである水力発電を確保し、安定供給することにより、CO₂の削減に貢献する。
- ・廃棄物のもつエネルギーの有効活用により、環境負荷の軽減を図る。

3-(4) 結果 施策における2010年度の目標)

- ・水力発電による発電能力：99,200kW
- ・RDF発電施設の発電能力：12,050kW

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度 (11年度)における基本事務事業の結果評価

①前年度に行った内容と成果

- ・川上発電所建設事業の設定 (最大出力 1,200kW、平成11年度～平成16年度)
- ・既設発電施設の計画的な改良、修繕により、水力発電の安定供給を行った。
- ・新規水力発電所の調査 (宮川ダム維持流量発電所)
- ・RDF発電施設建設事業の設定 (最大出力 12,050kW、平成11年度～平成14年度)

②前年度に残った課題

- ・川上ダム竣工は、用地補償等で当初平成16年度竣工より遅れる可能性があり、当発電所建設事業工程に大きく影響がある。そのため今後、ダム事業の進捗に合わせ、ダム運開と同時に発電できるように工程を効率的に変更する必要がある。
- ・RDF発電施設は、市町村で製造されたRDFを適正に処理し、ゴミの未利用エネルギーを有効活用するために建設するが、施設の運転経費は売電収入を充てることにしているため、売電価格の低下による収入不足が予想される。その不足分の補填について関係市町村と協議する必要がある。

4-(2)本年度(12年度)における基本事務事業の見込み評価

①本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

- ・水資源開発公団が施工する川上ダムに参画し、ダムの治水、利水等のための放流水のエネルギーを利用して発電を行う川上発電所建設事業を行う。
- ・既設発電所の計画的な改良、修繕により水力発電の安定供給。
- ・新規水力発電所の調査（宮川ダム維持流量発電所）
- ・未利用のゴミのもつエネルギーを有効利用し、大気等への環境負荷を抑制するため、RDF発電施設建設事業を行う。

②本年度残ると思われる課題

- ・川上発電所の建設及び新規水力発電所の調査。
- ・老朽化施設の計画的な改良、近代化。
- ・RDF発電施設の建設推進。

5 基本事務事業の改革方向

- ・川上発電所の建設及び新規水力発電所の調査を推進する。
- ・老朽化施設の計画的な改良、近代化の推進。
- ・RDF発電施設の建設推進。

6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値		予算額等 (万円) 所要時間 (時間)	必要概算 コスト(万円)
	目標	実績				
前々年度 (H10年度)	% 100.0	% 99.1	水力発電能力 97,800kW	RDF発電能力 0kW	5,017,400 215,947	5,017,400
前年度 (H11年度)	100.0	99.2	97,800kW	0kW	4,168,405 201,940	4,168,405
本年度 (H12年度)	100.0	100.0	97,800kW	0kW	4,737,943 201,927	4,737,943
本年度補正後 (H12年度)	100.0	100.0	97,800kW	0kW	+10,283 —	+10,283
翌年度 (H13年度)	100.0	—	97,800kW	0kW	5,482,257 188,826	5,482,257
計画目標年次 (H 年度)	—	—	—	—	—	—

7 翌年度(H1 3年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM : ProjectPortfolioMatrix)

〈必要概算コスト： ☆5億円以上 ◎～1億円 ◇～5千万 △～1千万 ・1千万未満 *休止・廃止〉

基本事務事業の成果向上への貢献度合

直接的に貢献する	☆営業費用 ◎宮川第一発電所改良費 ◎宮川第二発電所改良費 ・宮川第三発電所改良費 ◎長発電所改良費 ◎三瀬谷発電所改良費 △大杉貯水池改良費 ・青蓮寺発電所改良費 *大和谷発電所改良費 *蓮発電所改良費 ・業務設備改良費	△川上発電所建設費 ↑ △新規水力発電所調査費 ↑ ☆RDF発電施設建設費 ↑	
	◎他会計貸付金		
間接的に貢献する			
貢献度合の考慮外 ～活動基盤となる 事務事業など			
	即効性（2年以下）	中期的（3年～5年）	長期的（6年以上） 効果発現までの期間

※ 各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

基本事務事業名：電気事業

4/4

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細

※ 新規事務事業には、事務事業名に「新」を付す

事務事業名 担当課)	成果指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (時間)
営業費用（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、発電施設の運転及び維持管理を行う。	2,311,035	1,580	┘	
宮川第一発電所改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	193,535	177,246		
宮川第二発電所改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	217,650	127,933		
宮川第三発電所改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	9,349	9,349		
長発電所改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	100,900	86,704		
三瀬谷発電所改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	101,459	33,919		
大杉貯水池改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	47,821	264	188,826	▲ 13,101
青蓮寺発電所改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している発電施設の近代化を図る。	9,864	9,864		
業務設備改良費（電気課）	供給電力量の満足度	発電電力を安定的に供給するために、劣化している通信設備の近代化を図る。	572	▲ 1,468		
川上発電所建設費（電気課）	建設の進捗度	環境に優しいクリーンな地域エネルギー確保のため、川上発電所の建設を行う。	30,246	2,737		
新規水力発電所調査費（電気課）	調査の進捗度	宮川ダムの維持放流水を利用してクリーンなエネルギーを確保するための調査を行う。	28,332	17,645		
R D F 発電施設建設費（電気課）	建設の進捗度	一般廃棄物の持つエネルギーを有効利用するため、R D F の安定的な受け皿として R D F 発電施設を整備する。	1,211,466	668,759		
他会計貸付金（電気課）	貸付充足度	三重県市町村振興事業貸付金の原資として、貸付を行う。	100,000	0	┘	

[illegible]